

立命電友会

RITSUMEI DENYŪKAI

No.
62

目次

- P1-2 巻頭言
P2-3 立命電友会関東支部第1回総会
P4-5 OBからの投稿
P6-7 同窓会だより
P8-9 会計報告
P9 計報、事務局だより

巻頭言

人生における転機と気づき

コンサルタント（ヘルスケア、グローバルビジネス）

前田博巳（1980年電気工学科卒）



I. 最初に

私は、1980年に卒業した後、(株)カネカ等の会社に勤務、2022年に定年退職、現在、67歳、コンサルタントをしています。今回、社会人生活を通じて得た「人生における転機と気づき」について、電気や会社生活に関する自分の経験と照らし合わせて、シェアさせて頂きたいと思います。

II. 私の大学時代、社会人時代の転機

1. 大学時代

私は浦山研で、テーマは「トライアック等の位相制御」でしたが、その時の最も貴重な経験は、浦山先生との出会いでした。気さくで、良い意味で上下関係の壁を感じない（相談しやすい）方だと感じ、私の会社生活の上司像が、その時、無意識下で出来上がったように思います。

大学時代で特に人生の転機になったのは、映画「野生の証明」のエキストラ役の中に選ばれて、当時、ドル高で海外旅行が珍しかった時代に無料で米国に行けた事。エキストラ役選出には体力テストがあり、これにパス出来たのは、合気道部で毎日鍛えていた事が役立ちました。

2. 社会人時代

エキストラ役で米国に行けた事がきっかけで、入社した会社から、社会人2年目（1981年）で、米国に駐在を命じられました。当時の米国での日本企業の勢いは凄まじく、日毎に街で見かける日本製品（車、家電、・・・）が増えていく感じで、社内の空気も今とは違い、閉塞感はなく、誤解を恐れずに言うと、「いけいけドンドン」でした。駐在を始めた私は、当時、英語も全く話せず、技術に関してほぼ無知で、いつ日本に

帰されてもおかしくない状況で、生まれて初めて、孤独感と無力感で打ちのめされました。凹む毎日が続いたのですが、それこそ関西弁の「必死のPATCH」で努力し、同時に、周りの米国人スタッフの中に心配し助けてくれる人もいて、そのような人達のお蔭で乗り切る事が出来ました。3年半の駐在により、「英語」、「グローバル視野での思考」という貴重なスキルを身に着ける事が出来ました。

帰国後、医療機器の研究開発に携わり、当時、マイコンが普及する中、生体信号のセンシング、マイコン回路の設計/ソフトなどを経験しました。具体的には、妊婦さんが出産時に使う分娩監視装置というもので、お腹の中の胎児の心拍数を、超音波センサーでセンシング、リアルタイムで計算するものです。この経験で、「メディカル・エレクトロニクス」が技術面での私のコアになりました。

1991年に、(株)カネカという会社に転職、医療器事業に約30年間携わり、海外駐在経験、英語等のスキルのお蔭もあって、グローバル事業、新規事業創出などを経験しました。海外ベンチャーの技術の評価等も行い、その際、メディカル・エレクトロニクスのスキルが役立ちました。(株)カネカにおいて最も大きな転機は、米国の起業の聖地、シリコンバレー（SV）に2016年～2022年まで駐在出来た事。SVのエリートの大学生は、Google等の超大企業に行くか、起業家になるかの世界で、日本との大きな違いに驚きました。前述のように、私は大学卒業して直ぐに米国駐在し日本の凄さを実感した一方で、会社を卒業する直前に再度米国に駐在し、今度は真逆の日本の衰退を目の前で実感しました。現在の日本企業の多くが、80年代に比べると、数字では高い目標を掲げているものの、技術やイノベーションの目標、チャレンジレベルでの目標

が低く、また視野が狭い（ドメスティック思考等）事などが原因と個人的には思っており、電友会の皆様、学生の方々には、高い目標と広い視野を持って頂きたいと思います。

現在は、医療器分野における経験、SVでの経験・人脈を活かして、コンサルタントの仕事をしております。

Ⅲ. 「人生における気付き」

今、これをお読み下さっている方の中で、「人生とはこうなっているんだ」と感じるような経験をされた方は少なくないのではないのでしょうか。私の場合の人生における気付きについて、3つだけご紹介いたします。

1. 「人生において試練が起こるのは当たり前」

試練というのは様々な形で人間すべてに平等に起こりますが、その時、避けようとするのではなく、真っ向から向き合って解決法を考えた方が良いと思います。乗り越えたからこそ次の新しい素晴らしい世界が見えて来る場合が多いからです。私は44歳の時に左目が見えなくなり、約10年もの間、「何故、自分にこういう事が起こったのか？」と悶々していたのですが、ある方とお会いし、考え方が一変、人生が大きく転換しました。なぜ、もっと早く真っ向から向き合わなかったのかと後悔しています。

2. 「人生で起こる事は必然で起こっているようなところが多々ある」

Steve Jobsのスタンフォード大学の卒業式でのスピーチの中の「点と点を結ぶ」の話は有名ですね。

<https://www.youtube.com/watch?v=XsRpvWHIVw0>
私の転機を振り返ってみると、やはり、過去の経験が点と点が繋がっていて、それは必然だったように思います。今の世の中は、色々と振り回される事が多いですが、自分を信じて、ぶれずに行動していき、新しい点を作り、点と点を繋げることが今後ますます重要になっていくと感じます。

3. 「人生には、不思議な「縁」がある」

人生で困っている時に真面目に努力していると、私の場合、打開のきっかけになるような人、あるいは、出来事が起こり、それが転機となりました。「ご縁」を意識して毎日、人と接する事が極めて大事だと思います。

Ⅳ. 最後に…

今回の執筆の機会を頂き、事務局の皆様、本当に有難うございます。お役に立つ事が書けていれば嬉しいです。立命電友会のさらなる発展、そして、皆様のご健勝、ご活躍を願っております。

立命電友会関東支部 第1回総会報告

2024年11月16日 於：立命館東京キャンパス

1976年卒 浜崎 博明

Ⅰ. はじめに

43年間続いた関東立電会は昨年総会で立命電友会関東支部に引継ぎ、今年（R6）は記念すべき第1回総会を開催することになりました。

今年はハイブリッド開催として、参加登録もハガキに加え Web でエントリー可能としました。若い人にも気軽に参加できる企画とし、対面18名 Web 9名の参加を頂きました。

Ⅱ. 講演会

OBによる講演は前田博巳氏（'80年卒）より大学卒業後医療機器メーカーで一貫して医療機器の研究開発に従事、脳神経分野を専門とし米国駐在で新技術・トレンドを調査する中で生成AIの活用を身に付けられ、今回「イノベーション」シコウ（思考・志向）」と題し、お話しを頂きました。



進化し続けている人工知能（AI）を脳科学から生成AIに至る過程を、神経細胞（ニューロン）の構造や思考のメカニズムを動画を使いながら解説され、更に“人生の質を高めるための「生成AI」の活用”の方法を生成AIアプリの実演を通じ、解り易く紹介されました。

OBのご講演資料

“イノベーション”シコウ（思考・志向）～「脳科学」と「生成AI」の活用～
（前）株式会社カネカ 前田博巳（1980卒）

本日の話の内容

- ▶ 「脳科学」編
 - ① なぜ、脳科学？
 - ② 脳・神経に関する基礎知識
 - ③ 注目すべき脳科学分野での発見
 - ④ 人々の質を高めるために
 - ⑤ Q&A
- ▶ 「生成AIの活用」編
 - ① ChatGPT等の大規模言語モデルの持つポテンシャル
 - ② AIの進化で世の中はどうなる？
 - ③ プライベート/仕事におけるAIの活用事例
 - ④ Q&A

40分 5分
45分 10分

今までのおさらい

- ① なぜ、脳科学？
 - 脳のメカニズムを理解し、脳みそ解、創造性UP、健康維持（身体、メンタル）
- ② 脳：神経に関する基礎知識
 - 脳はニューロン（神経細胞）のネットワーク（シナプス結合により、相互接続）
 - ※ 脳みそ
 - ※ 思考・認知している時、脳の神経ネットワークのいたるところが発火
 - ※ 新しい事を思考したり、回顧したり、熟考（出力）が伴ってシナプス結合を作る様子（神経可塑性）
 - ※ よく使われるニューロンネットワークは強化される（使：死滅）
 - ※ 「脳のニューロン」と「AIのディープニューラルネットワーク」との類似性

注目すべき脳科学分野での発見（まとめ）

- ① 我々が見ている（経験している）外界は脳が作り出したもの
 - 脳は、外界から入った生体情報を同調並列情報処理を行い、過去の経験をもとに、「予測」する
 - 無意識下で処理
 - アウトプットを「意識」する
- ② 「自分の意志で自分の行動を決めている」というのは「幻想」
 - 「予測」を修正し、予測結果として、「意識」として現れる
- ③ 90秒ルール（アンガーマネジメント）

イノベーション・シコウのための脳科学

【脳科学の発見・応用】

- モチベーション
- 3.3つの思考・志向
- ビジネススローへの意識
- 「ひらめき」

どのようなアウトプットも、多岐にわたる脳科学分野での発見・応用から生まれる（脳科学の応用は無限大）

生成AIが特に役立つ用途例

- ▶ 創造的な仕事
 - ✓ 発想、アイデア出し、企画
 - ✓ リサーチ
 - ✓ 翻訳
 - ✓ 翻訳、企業、市場、特許、...
- ▶ 業務効率化
 - ✓ コンタクト作成
 - ✓ フォローアップ
 - ✓ 資料（日本語・英語）
 - ✓ 会議内容などの文字起こし
 - ✓ 会議録、要約、要約、要約、訂正、整理
 - ✓ ChatGPT 4o, Claude 3.5 sonnet, DeepL, Mapity（マインドマップ）
- ▶ 学習
 - ✓ ロールプレイ
 - ✓ 難関の分野、技術に対する短期知識習得
 - ✓ 外国語学習（会話）
- ▶ プライベート
 - ✓ 話し相手、相談相手（身内）
 - ✓ 多岐にわたる質問、疑問（Googleに尋ねていること）
 - ✓ 日常の様々な疑問、疑問（Googleに尋ねていること）

ChatGPT 4o, Claude 3.5 sonnet, Consensus, Elicit, Paper Interpreter, Connected Papers, Perplexity, Genspark, ChatGPT 4o, Google Note bookLM, Gemini, ChatGPT 4o, Claude 3.5 sonnet, ChatGPT 4o, Claude 3.5 sonnet, Microsoft Copilot, Gliafit, ChatGPT 4o, Claude 3.5 sonnet, DeepL, Mapity（マインドマップ）, ChatGPT 4o, ChatGPT 4o (Advanced voice mode), Perplexity, Genspark, ChatGPT 4o, Eightify (YouTube要約), ChatGPT 4o (Advanced voice mode), ChatGPT 4o, Google Note bookLM, ChatGPT 4o, Claude 3.5 sonnet, Perplexity, Genspark

- ChatGPT：発想、企画、ロールプレイ、英会話
- Consensus：リサーチ（論文検索 etc）
- Genspark：企業概要の調査
- Perplexity：無知の分野に対する知識習得
- Claude3.5sonnet：画像からテキストの読み込み

質疑応答では席上から生成AIの限界の有無や感情を含む人工意識・フェイク問題など活発なやり取りが行われました。

大学からは川畑教授より理工学部やびわこ草津キャンパスの近況報告と今年度からの試みとして「現役教授による講義」として「パワーエレクトロニクス～30年目を迎えた研究室とこれから～」と題しお話を頂きました。

幼少時にモーターが回ることに興味を持ち、その後一貫してモーターの制御方法を研究、インバーターの新技術の特許申請、研究室で学生との実験の様子を動画を交えた講義は興味深く、私達の学生時代を思い起こさせる講義となりました。



Ⅲ. 総会

総会の審議決議事項では関東支部は立命電友会の一翼を担う地域支部の立場を明確にし、全員の拍手で決議されました。

1. 支部の会則について

支部として独自の会則を持たない、本部の会則に含める。
2. 支部の会計について

支部としての独自の会計を持たない、本部の会計の範囲内で運用し、支部の行事費用などは毎年の本部の年間計画に組み込み、予算・実績管理を行うものとする。
3. 監査役の選任について

独自の監査役は持たない。

Ⅳ. まとめ

総会終了後の懇親会では13名の参加による世代を越えた生成AIなどの会話で盛り上がりました。

次年度以降の活動は電友会の一行事として、更なるWebの活用など創意工夫し企画致したく、関東地域に限らず電友会会員の皆様からのアイデアを募って参ります。

- 会の名称：通常は「定例会」、決議ありは「総会」
- 会の頻度：年1回（本部・他支部開催年度は除く）
- ハイブリッド開催：参加者は関東地域に限定せず全国から募る（対面・オンラインとも）
- 案内募集：メールを最大限に活用、参加登録もQRコードなどIT化を推進する
- 幹事の任期：4年間（再選回数は定めない）

OBからの投稿

BKC キャンパスを訪問して

1963年(昭和38年)理工学部電気工学科卒業 小山 哲二

広い衣笠球場があった。隣にテニスコートがあった。木造長屋の実験棟が並んでいた。

そんな衣笠キャンパスを1963年卒業した電気工学科の有志、毎年集まって友好を温めてきた。もう60年になる。2019年に和歌山城を11名で訪ねたあと、コロナで中断していたが10月20日やっと再開できた。しかし、この間、訃報はがきが奥様から届いたり、体調不良で遠出できない友もいて再会できたのは4名。それでもびわ湖畔の休暇村での一夜は、深酒もせずお互いの健康を喜び合い夜遅くまで語らいた。

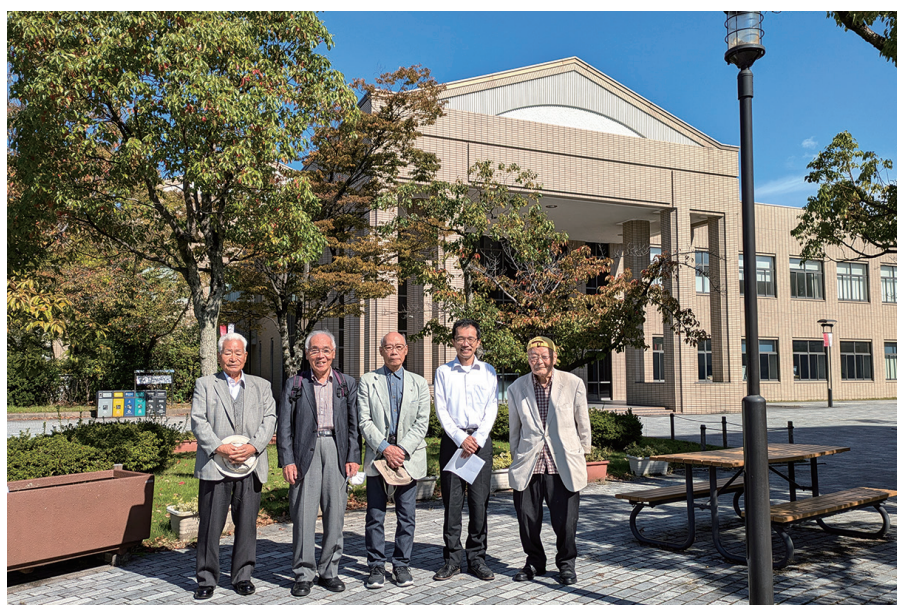
翌朝はすがすがしい秋晴れ、楽しみにしていた草津キャンパスを訪れることになっていた。JR南草津駅からタクシー、東門からキャンパスに入った。コアステーションでは、お忙しい中なのに電友会の方々に迎えにいただいた。キャンパス概要の説明を受けたあと、噴水前で記念撮影して実験室に案内された。入口の壁には英文の実験レポートが目につく。レポートは英文で書くよう指導しているとのこと。遠い昔、手書きのレポートを提出する順番待ちに朝早く、まだうす暗いうちから教授の部屋の前に並んだことをふと思い

出した。光伝送装置や大型ディスプレイが並んだ実験室を見て、当時の木造の実験室とまた比べてしまう。やっぱり60年の隔たりは大きい。

建物から外にでた。甲子園の16倍はあるといわれるキャンパスはとにかく広い。木々の緑と建物のレンガは秋の陽に映えてコントラストが素晴らしい。建物の軒下にはオープンテラスが、緑地ゾーンにもテーブルと椅子がいたるところにおかれて、まるで公園のよう。そんな一角に学食があった。11時、好みのトレーをもってレジへ。「一般の方ですか?」と尋ねられて「いえ。OBです!」と返すところに、卒業生としての自負が出てしまう。広いキャンパス内を学生さんに尋ねながら見て回ったが、みんな丁寧に応えてくれた。やっぱり先輩として見てもらえているのか、ちょっと自尊心がくすぐられる。

既に30年たったというキャンパスだったが、私にとってはすべてが新鮮だった。今度来る機会があったら聴講生として学生と一緒に教室の雰囲気味わいたい、そんな余韻を残しながらキャンパスをあとにした。帰りのタクシー運転手のお父さんもわが立命の理工学部出身だとか。

友との再会、母校訪問の感激 とても有意義で楽しい一日でした。



BKC キャンパス 噴水前 (2024年10月)

昭和 38 年電気工学科卒業生 “風変りな？同窓会の変遷”

1963 年(昭和 38 年)理工学部電気工学科卒業 上條 保彦

この同窓会は関西圏在住の特に“人生は楽しむべし”という思想の持主数人(杉岡、今邑、門田諸氏等)の発案で、卒業後毎年12月第1土曜日午後5時、阪急宝塚駅南出口前の和風旅館に集合して、1泊することから始まりました。常任幹事は(株)関西電力勤務の川口氏に決まりました。当初参加者は十数名で、日頃から仲の良い仲間の集いでしたから、長年学生気分若女将の差し入れに舌包みを打ちつつ、ワイワイガヤガヤと時世の議論・仕事関係・趣味の話等を談笑し、更に麻雀、カラオケ等深夜まで大騒ぎで気分転換の場でした。若女将のお気に入りの会でしたが、駅前開発で廃業される迄十数年続きました。更に若女将から、近くの近代的なホテルを紹介して頂き、暫く続きましたが、ホテルでは余り盛り上がりせず、長続きはしませんでした。

私自身三重県への転勤とドイツ赴任等で出席がままならない期間もありましたが、帰阪後は川口氏と池田市・箕面市等の旅館やホテル、時に川口氏のマンショ

ンと場所を変えて開催を続け、1990年代は**流浪の命立会**となりました。同時にメンバーの仕事が多忙なのか、飽きたのか、開催場所が原因なのか参加者が一時的に少なくなりました。

2001年有本氏の地元和歌山での開催を皮切りに、会員が自発的に幹事となり、忘年会を兼ねて幹事の地元観光旅行と抱き合わせた**観光の命立会**へと発展し、開催地方の観光を楽しみつつ近況報告の談笑を楽しみ参加者数も盛り返しました。高山、栗野、岡川氏の努力で東は松本、箱根、伊豆、宇奈月、下呂等々、地元は京都、天橋立、神戸、更に西は広島迄20地域以上に開催場所が広がりました。最大のイベントは2006年中国蘇州工場勤務の有田氏が幹事を引き受け、上海・蘇州・南京・西安・北京を旅し、近代化前の中国と歴史を見聞出来ました。この旅にはモーター一筋の有本氏がお嬢さんと参加されました。

その後も毎年継続し、2019年の和歌山城後はコロナ禍で休会を余儀なくされました。自粛生活が会員の体力低下を招き、開催が滞る間に杉岡、有田氏に加え主役の栗野、門田氏等4名も他界、現在療養中とか体力低下等で8名が不参加となりました。

今回の近江八幡休暇村会の報告により、大阪近辺なら出席可能との情報から、来年は大阪地域開催とし、再度少し賑やかな会を復興したいと考えてます。



中国 南京大橋で (2006年6月)



中国 孫中山館前で (2006年6月)



箱根で (2010年11月)



広島被爆流川教会の前で (2013年9月)

同窓会だより

「辻村・前田・浦山・川畑研究室 合同同窓会」の開催について

2024年7月6日「ホテルグランビア京都 源氏の間」にて、前田先生、浦山先生をはじめ42名の出席をもって合同同窓会を開催いたしました。今回は故辻村先生の三回忌に当たり、また、コロナ禍で開催が叶わなかったこともあり、第一部は合同同窓会の総会、第二部は辻村先生を偲ぶ会として開催しました。また出席者の中には標記研究室の卒業生以外にも電気工学科卒業の学友関係者で参加を希望される方にも参加していただきました。

いつもですと辻村先生のユーモアとウィットに富んだあの軽妙なお話しから同窓会が始まるのですが、もうあの話し聞くことができなと思うと非常に寂しく感じ入りました。ご参加いただいた会員一人ひとりにも同じような思いがあったかと拝察いたします。また、前田先生にご無理を願い、先生の膨大な保管写真



の中から若かりし辻村先生、前田先生、浦山先生の写真等をご準備いただき、(予算がかけられないという事情もあり)藤山志伸さんが編集しPC、ディスプレイ一式を汗をかきながら担いで会場に搬入し開催中流していただきました。多くの方が感慨深く見入る姿もあり、恩師辻村先生がおられないことの寂しさがさらに込み上げてきました。

合同同窓会については、川畑研究室が本合同同窓会から脱会し、今後は「辻村・前田・浦山研究室合同同窓会」として改称し継続することが総会にて承認されました。また、規約もいつのまにか不明となっていたため、例えば、大学との繋がりを維持するために他研究室卒であっても電気電子工学系の本学卒業生であればお申し出に応じて参加していただけることや、可能な限り1年に1回同窓会を開催すること等の規約を含め改めて制定し、総会にて承認されたことをここにご報告いたします。

(辻村・前田・浦山研究室合同同窓会会長 (1980年卒) 小川 弘之)



「浦山研究室同窓会」の開催について

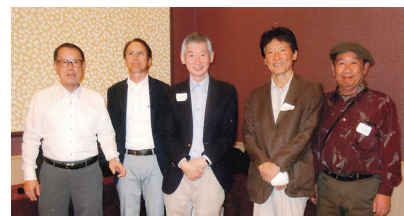
2024年11月9日「都ホテル京都八条(旧新都ホテル)」にて、浦山先生と奥様、前田先生をはじめ34名の出席をもって同窓会を開催いたしました。コロナ禍云々に関係なく、特に規約もなくなんとなく開催できなかったこともあり、久々の開催での異常な盛り上がりとなりました。本同窓会も高齢化が進んでおり、中には健康上の理由で参加できない旨のご連絡を頂戴した方もおられ、健康の重要性を改めて認識した次第です。参加者には浦山研究室の前身の山本研究室のOBの方、遠くは山形県から日帰りでのご参加、愛知県知多半島からの名物男など懐かしい顔があちこちにあり、生存確認と共に再会ができた喜びのもと、飲み放題プランにて旧交を温めました。

我が浦山研究室同窓会の開催については前記の通り

特段の取り決めもないのですが、このたび浦山先生が照明学会から長年に亘る教育への貢献に対して表彰されたことのお祝いをと、有志を集い、一度も膝を突き合わせることもなく、今風にZoomによるWebミーティングにて企画し、そのついでに同窓会の総会を開催するに至りました。(幹事:加藤義彦氏、前田博己氏、中土誠氏、鈴木一嘉氏)

前田先生の乾杯のご発声に続き、浦山先生からも表彰についてのお言葉を頂戴し宴会へと進みました。総会においては、「大学との繋がりを維持するために」本同窓会を今後も継続していくことがアバウトに承認されたことを受け、同窓会の横断的個別グループとして「前立腺肥大症の最先端治療調査会(仮称)」(野中会長、小川事務局)の発足を計画するとの声も上がりました。(賛同者はこちらをご覧ください)

今回の同窓会は1年から1.5年後のテキトーな時期



に開催するというゆる～い取り決めの提案を行い、また中土誠幹事が会長を快く受けていただき、いずれも総会にて承認されました。同窓会の終了後も京都駅南界隈にて前田先生はじめ帰宅したくない仲間たち20名ほどで3次会まで盛り上がり、各自閑散と帰宅の途につきました。(仕事の都合で3次会から参加いただいた畑本忠行さん、よくぞ駆けつけていただきました！)

中土会長、次回開催をどうぞよろしくお願いいたします！！

(浦山研究室同窓会暫定会長 (1980年卒) 小川 弘之)

第5回 川畑研究室同窓会 開催報告

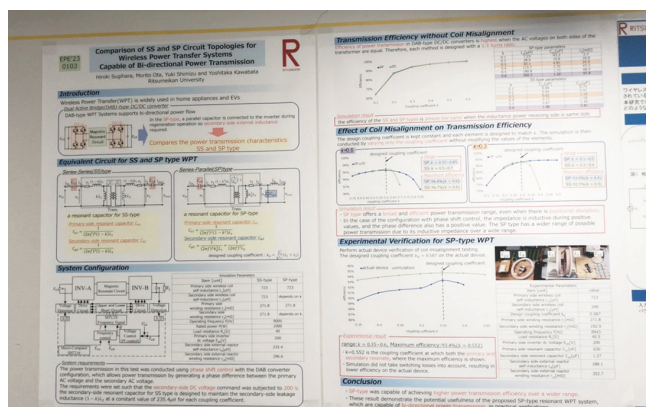
2024 (令和6) 年11月9日 (土) に、川畑研究室の総会・同窓会を開催しました。川畑研究室の総会・同窓会は、2022年11月に第4回目の開催を行ってから、2年ぶりの開催でした。

1994年に「びわこくさつキャンパス」(以下、BKC)が誕生し、あわせて川畑研究室が発足しました。今年4月に発足30周年を迎え、これを記念してのBKCの「電子システム系会議室」にて開催しました。今回は初めてのハイブリッド形式とし、川畑良尚教授をはじめ同窓生/院生/学部生 合わせて現地35名+オンライン1名の参加となりました。総会実施に続いて川畑良尚教授による講義と院生と同窓生による研究テーマ発表を行い、その後 研究室見学で、院生/学部生の研究テーマについて見ていただきました。

総会を終えて、同窓会(懇親会)の会場へ移動。JR南草津駅付近にて執り行い、現役生と懇談できて有意義とコメントもありました。

5回目の今回は院生/学部生の参加が多かったものの、同窓生は2010年代後半～2020年代前半の卒業生が多く、幹事メンバー世代との間の交流がまだ少ないという課題は引き続き残りました。研究室発足から30年経ち同窓生も各地で活躍するようになった事もあり、京都/草津を離れて地方での開催希望も出てきましたので、同窓生との交流を深める意味でも幹事一同、積極的に考えていきたいと思えます。

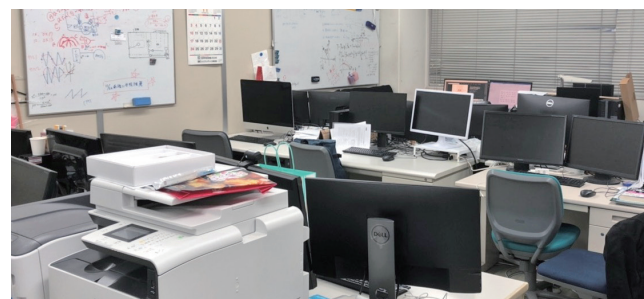
最後に、今回同窓会に参加できなかった方々も、次回開催の折には是非とも同窓会に参加頂き、人とのつながりを新しく掴み、交流を深め広げて頂ければ幸いです。(1995年卒 威徳井 浩)



研究室見学 (廊下に掲示されているポスター)



講義の様子



研究室見学 (院生が利用しているパソコン)

立命電友会会計の特徴

●全体を通して

2022年、23年度立命電友会会計の最大の特徴は、第8回総会および創立30周年祝賀会の費用として22年度に約511万円の支出を行ったことです。

これらの行事に伴い、人件費が予算額より約21万円増加しました。一方、その他の収支については例年と大きく変わらない状況を維持、もしくは支出減が行われました。23年度は、予実には若干差異のある項目もありましたが、トータルでは概ね予算計画通りの執行が行われ、会計構造の大きな変化はありませんでした。

1. 一般会計 (A) について

収入の部

- 終身会費納入が主たる収入源であり、2022、23年度の平均は約247万円でした。また、卒業者数に対する平均の納入率は約82%でした。
- 年度により入学者数のバラツキがあるため会費収入も増減します。
- コロナ禍の時期に納入率の低下が見られましたが、2023年度は約85%の納入率となりコロナ禍以前の水準に戻りました。

支出の部

- 会報に関する印刷発送・通信費は印刷部数の変動等により年度により執行金額が変動しますが、ホームページ掲載化による効果が持続できています。
- 22年度は、コロナの影響により卒業祝賀会・電友会入会式の 飲食負担分の執行がありませんで

したが、23年度は対面実施のため支出が発生しました。

入会式開催費が予算額より膨らんでいますが、老朽化した吊り看板を更新したため24年度以降は予算通りの執行が見込まれます。

- 22年度には、30周年祝賀会開催費用の補填として、予備費から約47万円を支出しました。

2. 長期計画会計 (B) について

- 22年度に100万円の繰入れを実行し、現在約700万円が定期預金されています。

3. ホームページ運営会計 (C) について

- ホームページ運営会計の財源は、バナー広告収入となっていますが、一般会計より毎年若干補填しており、赤字となっています。

バナー広告を掲載して頂ける企業を拡大する必要があります。会員の皆様のPR、ご紹介を是非ともお願い致します。

4. 定時総会運営積立金会計 (D) について

- 総会開催年度に逼迫する会計を平均化するために計画したもので、4年間で200万円を積み立てる計画となっています。

22年度には、総会・祝賀会開催のため定期預金を解約し約364万円を支出しました。また、次の定時総会に向けた積立として、23年度には50万円の繰入れを実行しました。

(会計 1997年卒 久保幸弘)

訃報

昭27年卒 田中稔 令和4年
 昭30年卒 泉本良雄 令和5年11月
 昭31年卒 澤村眞彦
 昭33年卒 上棟一生 令和6年1月14日
 昭37年卒 早川公章
 昭37年卒 北村俊男
 昭38年卒 後藤浩文 令和5年9月6日

昭38年卒 星野章 令和4年
 昭41年卒 寺岡史法 令和6年4月13日
 昭42年卒 駒井義雄 平成21年10月6日
 昭47年卒 島田完二 令和2年2月
 昭51年卒 長谷川照夫
 昭52年卒 栗田毅 令和4年9月
 (敬称略)

ご冥福をお祈り申し上げます

事務局だより

立命電友会会報62号の発行にあたり、ご寄稿、ご投稿を頂きました皆様に対し心よりお礼を申し上げます。

今後とも会報内容充実の一層の努力を重ねて参りたいと考えております。どうぞ、会員の皆様の積極的なご寄稿、ご投稿を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

住所及びアドレスの変更がございましたら事務局までご連絡頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。ホームページから変更受付をしておりますのでご活用下さい。(岸・鍋谷)

立命電友会連絡先

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学理工学部電子システム系内

立命電友会事務局 川畑 良尚

岸 千津代 (月・木)

鍋谷 十重子 (月・木)

電話：077 (561) 2554 FAX：077 (561) 2663

e-mail：den-yu@st.ritsumei.ac.jp

http://ritsumei-denyukai.com/

(会報の題字は久保之俊氏)